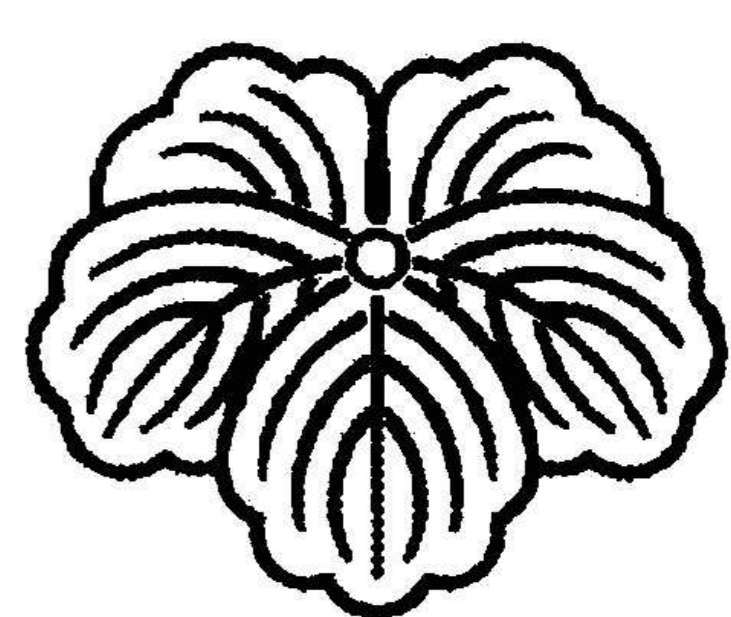


「リュウマ伝」は高野の分身がお客様のところへご挨拶に向う。という気持ちでお届けしています。



# リュウマ伝

5号  
2020年4月24日  
高野 竜馬

## 魔法のコトバ

先日ジョギングから汗だくで帰ってきて、小学生の娘にストレッタの手伝いをお願いしたら鼻をつまんで逃げられ、仕方なく息子(5歳)にお願いすると「僕、忙しから」と幼児番組を見ながら断られた高野です。

更に不幸なことに新型コロナのおかげで今春の行事は全て吹っ飛んでしまいました。

その中には、もう二度と出場しないと決めていた糸島110kmオークがあります。日記を読み返すと当時(2018年)の心境が今もリアルに感じられます。当初、軽く歩けると踏んでいた私は2月のある休日、自宅(周船寺)から家内の実家、八女まで近くまで66キロをリハーサルしてみたのです。

正直、110kmといっても走るわけがなし、「ただ歩くだけだし」と考えていた私は大きなショックを受けました。歩いてみて気づいたのは20km時臭で走るのよりキツイ。長時間、立っているせいか日頃のジョギングでは何ともない距離で違和感を覚えます。そして30kmくらいになると大きなマメが痛み始めます。

「ほうほうのていしとは良く言ったもので40km過ぎからこういうようにしの動けなくなりました。朝5時に出たのに夕方4時でまだ鳥栖。40kmちいいで挫折。足が動かなくなるような恐怖を感じて鳥栖駅から電車に乗る羽大塚駅で家内に拾ってもらった始末。この時に味わった感情は、何とも言えない不気味なものでした。110kmなんて、どうやったって完歩できる気がしないのです。それからというもの本番まで憂うつなこと、憂うつなこと。おまけに大会実行委員長とは某会で毎週顔を合わせいていましたので、その会に参加するのも億劫になる始末。2018年4月21日、負けず嫌いの私もフェイスブックに「最初で最後」と書いてスタートしました。糸島半島を2周する大会の2日目。独り真暗な海沿いに見る浦あたりを歩いているとあの不気味な感覚が蘇ります。それから数歩歩くごとに魔法のコトバを自分に言い聞かせるようにしました。

「何故かこれがすべて上手くきました！有難うございました。」  
「何故かこれがすべて上手くきました！」  
「有難うございました」と過去形で前祝いすることの大切さを身をもって感じた出来事でした。26時間38分で完歩した時は、もう足を止めても良いという安堵感しかなく、達成感というより「歩けたよ、たよ、おい」という不思議な感覚でした。もしかすると今また、この新型コロナの状況下で使えるかも知れません。皆さんも「魔法のコトバ」をお持ちでしたらぜひ教えて下さい。



たかの財形事務所

〒819-0374 福岡市西区千里 707-13

☎090-3407-2123

https://www.takanozaikai.com メール fp.takano@gmail.com